



食品値上げ 県内で悲鳴

食品の値上げが止まらない。帝國アータバンクが食品主要百五社を対象にした調査では一、四月に値上げされる食品は七千三百九十品目になり、一月が四千二百八十三品目と集中。県内のスーパーは対応に追われ、県民は家計のやりくりを悩ませている。

(山内道朗、中田誠治、平林靖博、山本洋児)

スーパー価格維持「いつまで」

福井市高木中央三のスーパー「アルビス高木店」では、グループの方針で三月末まで食品の価格が上昇する中、購入が多い商品の価格増え幅をアヒールする売り場と同日、福井市のアルビス高木店で、牛乳やちくわ、豆腐などが、近隣のスーパーの動向を見ながら購入する商品の価格を握り「いつまでか」と話すが、歯止めがかからない状況に「いつまでできるか」と苦慮する。食品の中でも価格上昇が激しいのが食用油。物価高が始まる前に比べ倍になった。商

消費者 節約志向に傾く

インフレエンザのまん延などで卵も供給不足で二月中旬から値上がりが続く。その影響で、両方を主な原料にするマヨネーズも値上がりし、特売価格でも以前より六十円ほど高い設定になった。食用油の高騰は揚げ物などの総菜にも影響。卵や牛乳、野菜など加工食品以外の品目も値上がりし始め、余波がさらなる食品の高騰につながり、頭を悩ませる。

担当者は「客の購入品数は下がっているのに、購入額は上がっている」とも説明する。値上げの波を乗り切るため、消費者は節約志向に傾いている。大手輸送機器メーカーの工場で働く越前市の畑中卓也さん(仮名)は「仕

事量が減り、この二カ月は手取りが激減した状態」と厳しい生活状況。「今はできるだけ安く買ったものを買い、外食は一品減らす」など食費を抑えている。

大野市中野の小売業、佐々木沙織さん(仮名)は「家庭で必ず消費する食品は他のものに替えられない。子どもも食べられず、自分の健康に使う分まで減らすなどして対処したい」と話した。

坂井市春江町、主婦大田仁美さん(仮名)は「毎回買う食パンで値上げを実感している。これまでも同じ量を購入しても千円ほど高くなっている」と話す。影響を軽減させるため、電子マネー「iD」の利用や、最安値の店をさがしていることもあるとい